

巻頭言

徳島県剣道連盟会長に就任して

徳島県剣道連盟 会長 藤川 和 秋



令和三年三月十四日の令和二年度徳島県剣道連盟総会において、多くの会員皆様のご推薦を頂き、第十二代目の会長に就任させて頂きました。私にとっては思いがけないまた光栄なことであり、ご推薦して頂きました会員皆様に感謝とお礼を申し上げます。

さて振り返ってみますと高校生から剣道を始め、今日まで五十年という年月が過ぎ、あらためて生涯剣道を痛感しています。しかし現在の環境はどのスポーツも同じですが、少子化によりスポーツに携わる子供達が減少しています。剣道も例外ではなく、毎年小学生・中学生・高校生の剣道人口は減少し、日本古来の伝統文化として先人が築き上げてきた剣道の歴史に大きな影を落としてきています。

しかし、嘆いてばかりでは前に進めません。連盟としては、子供達に剣道への関心を持ってもらい剣道に携わる機会や環境を作っていく努力をしていかなければなりません。

今、剣道教室も県西部では人数が大きく減少しています。それ

ぞれの剣道教室ごとの稽古では従来の活気も無くなりつつあります。ここはピンチをチャンスと捉え、それぞれの支部や剣道教室が一致団結し、合同稽古会を開催するなど、いままでのエリアを越えた連携が必要ではないでしょうか。いまはコロナ感染症予防のため、西部・南部の交流稽古会も中断していますが、コロナ感染が落ち着けば小学生・中学生を対象としたブロック別剣道交流会を開催できればと思っています。

私は「剣道の基盤は少年剣道にあり」と思っています。小学生剣士を中学校に送り、中学生剣士を高校に剣士として送り出すことが当たり前にできるよう頑張っていきたいと思っています。

徳島県剣道連盟は現状に合った会則の改正等、今大きな課題が山積していますが、県下の一線現場でご苦労されている会員の皆さんの手助けとなるよう頑張っていく所存です。今後とも会員の皆様にはご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。最後に私の人生や剣道に対する信条は

【和衷共同】わちゅうきょうどう

心を合せ助け合う。一致協力して物事をなすです。会員の皆様、和衷共同で少年剣士を育てて行きましょう。